様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ７ 月 １４ 日現在

機関番号：３２６６１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ１５９０９

研究課題名（和文）ターミナルケア体験を学習へ転換する看護師支援プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a nurse support program to transform terminal care experiences into learning

研究代表者
浅野　美知恵（ASANO, Michie）

東邦大学・健康科学部・教授

研究者番号：５０３３１３９３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、看護師のターミナルケア体験を学習へ転換する支援プログラムを開発することを目的とした。看護師のターミナルケア体験を調査し､ケアの揺らぎ、相互理解の過程などを明らかにした。また、学習支援方法を調査し、有効な学習支援方法などを得た。さらに、これまでの調査結果および文献考察等を総合して支援プログラムを考案し、検証準備を行った。そして、支援プログラムの検証を行い、効果的な成果を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義
病院において死にゆく患者とその家族をケアする看護師の体験した出来事に焦点を当て、看護師個人とその集団の学習方法を検討し、ターミナルケア体験を学習へ転換する支援プログラムを考案した。本支援プログラムは、説明し合う過程で、看護師個人の持つ客観性と感受性が促進され、体験を経験化させるという学習を促進させることを特長とすることに学術的意義がある。今後さらなる検証を重ねて看護師が自ら実施できる支援プログラムの実用化を図ることでターミナルケアの質向上に貢献できると考える。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop a support program to transform nurses' terminal care experiences into learning. Nurses' terminal care experiences were investigated and fluctuations in care, the process of mutual understanding, and other matters were elucidated. Learning support methods were surveyed and the effective ones were identified. In addition, a support program was designed that synthesized the survey results up to that time and a review of the literature, and preparations to test the program were made. Then, the support program was verified and the effective results were obtained.

研究分野：臨床看護学　ターミナルケア

キーワード：ターミナルケア　看護学　がん看護　学習　経験　転換　教育プログラム　臨床教育

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

(1) 超高齢社会のわが国の社会的課題であるターミナルケアや看取りに対して、ホスピス緩和ケア看護職教育カリキュラム、日本緩和医療学会 ELNEC-J などが看護師教育に活用されている。一方、先行研究からは、一般病院でターミナルケアに直面する看護師の内面や学習、支援に関する理解は不十分であり、看護師は内的葛藤を抱え緊張状態にあることが推察される。

(2) 欧米において、ベナーら(2010)[1)]は、看護実践の経験が不可欠であることを指摘し、状況下におけるコーチングを提唱する。英国マクミラン･キャンサー･サポート(2014)、豪州のがん看護教育(2014)は、キャリア発達を明確にしており、いずれも臨床教育を重視する。

(3) ターミナルケアは、死にゆく患者とその家族のケアから死別ケアにも視点がおかれるようになったが、ターミナルケアを担う看護師自身のケアに対する揺らぎや感情の変化に対する支援はまだ十分ではない。本研究は、そのような看護師を支援するための学習促進プログラムを作成・評価する研究であり、臨床教育の充実やキャリア発達支援を目指すものである。

(4) 山﨑ら(山﨑、浅野、2014)[2)]は、病院における死の日常性が看護師に多大なストレスであることを明らかにし看護師の心のケアの確立が急務であると考えた。さらに、看取りに至るターミナルの過程で、看護師が体験するケアの揺らぎや感情の変化を学習に転換することができれば看護師個人やその集団の成長につながることが推察され、本研究に至る。ターミナルケア(浅野ら)[3)]、死生観育成(浅野ら、萌芽研究、2005)などの研究成果から、看護師にとっての学習は現実に即して具体的で実践的であることが要件となる。

２．研究の目的

本研究の目的は、病院において死にゆくがん患者とその家族をケア（以下、ターミナルケアと称す）する看護師が体験するケアの揺らぎや感情の変化を成長へと転換できる学習を促進する支援プログラムを構築し、それを検証することである。

３．研究の方法

(1) ターミナルケアにおいて看護師の体験した出来事に関する調査

対象：病院においてターミナルケア体験のある看護師で、調査に同意した者。

調査内容：ターミナルケアにおいて看護師の体験したケアの揺らぎや感情の変化をもたらした出来事とその影響要因、看護師が受けた支援と看護師の支援ニーズ、看護師が語る体験とお互いに説明し合う内容である。

調査方法：グループインタビューを実施。

分析方法：インタビューデータの逐語録を分析資料として質的帰納的に分析する。さらに、看護師が説明し合っている会話については、エスノメソドロジーの手法を参考に、共通理解の過程など会話分析を行う。

倫理的配慮：看護師を対象とする調査のため、研究者所属及び調査協力施設の倫理審査委員会による承認を得た後、調査を開始する。調査対象候補の看護師には倫理的事項について説明し、調査協力に同意した者を対象者として調査する。

(2) 学習支援方法に関する調査

個人の学習と集団の学習に焦点を当て、教育学、心理学、社会学などの関連学問も含めて広くその支援方法に関する国内外の情報を学会、学術誌、ウェブサイトなどから収集し、さらに、関連の取組みをしている施設や実施者、研究者にアプローチし、事前にメール等で承諾を得て、関連の専門的な情報収集と意見交換を行い、内容を検討する。

倫理的配慮：関連の取組みをしている施設や実施者、研究者から情報収集および意見交換をする場合は、事前に倫理的事項について説明し、協力に同意を得た後に実施する。

(3) 支援プログラムの考案

これまでの調査の結果および文献考察を総合して、学習を促進する看護師支援プログラムとして示す。看護師が自ら実施できるガイドとなるものを目指す。

(4) 支援プログラムの検証

協力の得られた看護師を対象に支援プログラムを実施する。ターミナルケアを体験した看護師が、支援プログラムに沿って体験した出来事を他の看護師に説明し、その過程と支援プログラム自体を客観的に評価する。実施結果及び評価内容に基づいて、支援プログラムの精錬を図る。

４．研究成果

(1) ターミナルケアにおいて看護師の体験した出来事に関する調査の結果

学内の倫理審査委員会の承認と協力施設看護部の協力を得て実施した。

調査期間：平成 28 年度～29 年度。

①対象者の概要：５名。女性４名、男性１名。看護師経験年数は全員 6 年以上、専門看護師１名。４名は 1 グループ 2 名のグループインタビューを実施し、１名は対象候補者の日程調整の都合により個別面接を実施した。

②面接内容を分析した結果、次のことが明らかとなった。

ケアの揺らぎや感情の変化をもたらしたのは、患者の苦悩の言葉、病状の急激な進行、家族の意向に対するジレンマ、同僚の言動によるケアへの問題意識、向き合わざるを得なかった自分の価値観であることが明らかとなった。

影響要因は、患者への態度、信頼関係作り、看取り観、終末期看護の経験、学びから身につけた看護実践力、役割意識と責任感、体験をリフレクションする態度、が明らかとなった。

語られたターミナルケア体験は、患者の言葉や病状の急激な進行など衝撃を受けたこと、家族の意向に対するジレンマなどをきっかけに事実を確認し、それに対するリフレクションサイクルが回り、ケアの再吟味を行って、次の患者へのケアに備え活用するという体験であった。

語り合いの過程では、相手の考えや感情の理解と共有、相手のケア内容の吟味と評価、相手の判断や活動に対するの承認、知りたいという探究心、真似したいという好奇心により応答しあっていたことが明らかとなった。

語りを促す問いかけは、「もう少し説明してください。」追加説明を求めるもの、「それはどのように整理していったのですか」など看護師の対応を問うもの、理由を問うもの、自己評価を問うもの、他者評価を問うもの、意味を問うもの、に整理された。

③考察：看護師のリフレクションは、事実確認から始まり新たな知識獲得などをしており学習しているといえる。探究心や好奇心は、学習能力の要素でもあり、さらなる学習が予測される。影響要因は、患者志向の考えと、ケアの質向上という組織目標達成志向が混在しており、仕事の信念のバランスがとれていることが推察される。以上、看護師のターミナルケアの学習支援に向けて、体験した事実の確認、看護師の仕事の信念などを重視する語り合いの方法について示唆を得た。

(2) 学習支援方法に関する調査

調査期間：平成 28 年度。

①対象者の概要：5 名。内訳は、組織論・学習に関する専門的知識を有する教育研究者 1 名、専門職教育に携わる教育者 1 名、がん看護・ターミナルケアの教育研究に関する専門的知識を有する看護系大学教員 2 名。

②情報および意見交換を行った結果、次のように整理された。

個人や集団への学習支援方法：経験からの学習能力と学習を方向づける信念の見極め、リフレクションサイクル、患者志向と組織目標達成志向を有機的に結びつけること、集団の中の一人ひとりに向き合うこと、学習が促進され成長する「ほめること、認めること、少し助けること」、が有効であることの示唆を得た。

ターミナルケアの学習方法：所属を離れて緩和ケア病棟や在宅ホスピスなどでの研修、事例検討会、リフレクションできるファシリテーターとなる人が自分の病棟で推進、が有効であることの示唆を得た。

(3) 支援プログラムの考案

①支援プログラムの考え方：支援方法として、看護師が自身の体験した出来事を説明するという方法を採用する。本研究における説明は、看護師個人がもつ背景理解に基づく推論(ガーファンケルら、山田ら訳 1987)[4]や洞察(梶田、1975)[5]の結果として表現されるものであり、心理学、現象学、社会学、現象学的社会学、社会心理学、エスノメソドロジー、教育学、学習理論などの学問を基盤にしている。

個人が体験した出来事を他の看護師に説明することを通して、体験を経験化させるという学習(梶田、1997)[5]を促進させることにある。このようなケアに関わる出来事を説明し合うことは、看護師個人が有している文脈を理解することになり、相互主観(藤井、1995)[6] (シュッツ、渡部ら訳 1987)[7]を作りだすことから、真に理解することにつながると考える。したがって、体験による学習が、看護師を成長へと導くと考える。

また、病院において死にゆく患者とその家族をケアする看護師達が集まって互いの体験を説明し合うことを通して、個人の体験を分かり合い、看護の本質を探究し共有するという集団としての学習機能を促進させ、その集団の看護への活力を促進させることにある。これは、組織の活力が学習で創られる(古川、1984)[8]と言われることと同じ意味である。

説明し合うことによって、集団内のコミュニケーションを活性化させるものである。集団内のコミュニケーション(中村、1981)[9]において、誤解の予防のためにも、冷静で客観的視野を見失わない心と他者の感情の動きに対する感受性が必須条件であるという。本研究においては、説明し合うというコミュニケーションの過程で、看護師個人の持つ客観性と感受性が促進されると考える。その結果、集団内のコミュニケーションが円滑に機能することにより、看護師は、看護の対象者である患者とその家族、同僚の看護師や関係者に関する理解を深め、看護現象の全体像把握とケア方法の専門性が高まり、ターミナルケアの専門力を獲得することになる。このことは、看護師が互いに相手のパワーを引き出すというエンパワーメントを促進する効果をもたらすと考える。

学習の方法は、生涯学習の観点から経験学習論の考え方[10]、経験からの学習（松尾、2006）[11](Matsuo、2015)[12]を基盤にし、リフレクションという振返りの方法を採用する。リフレクションでは、体験した出来事の説明し、その時の感情や思い・考えを表現した後、その体験はどんな体験だったかを評価する。この思考のプロセスを繰り返し回していく、リフレクティブサイクル

により学びを明確にしていく。このプロセスをとおして、事実を理解する力や考える力、物事を判断する力などが向上するため、成長につながると考える。支援プログラムの説明会においては、このリフレクションのエクササイズ[13]を体験して個人の学習へつなげる。

②支援プログラムの内容と構成：内容は、リフレクションサイクル、感情への対応、情報の適切な意味づけ、倫理面のチェック、方法は、リフレクティブサイクルによる学習、体験の語り合いを含み、看護師が自ら実施できるように考案した。支援プログラムの構成は、プログラムの概要説明、個人ワーク、集団ワーク、振り返り・評価の 4 部構成である。
プログラムの概要説明の内容：体験から学ぶ学習、学習と看護の実践能力、リフレクションの体験、看護師支援プログラムの実施方法、倫理的事項。
集団ワークの準備：個人ワークの記録用紙を用いて体験を整理する。
集団ワーク：集団ワークの用紙を活用して実施する。
振り返り・評価：調査票に回答する。調査票の質問内容は、Ⅰ：個人ワークの記録用紙について、集団ワークでの他者との語り合いについて、看護実践能力について、看護師支援プログラムの満足度について。4 段階で評価（4:非常に良い/よくできた、3:良い/できた、2:悪い/あまりできなかった、1:非常に悪い/できなかった）。Ⅱ：ワークごとの実践能力について、該当した能力をチェック。質問内容Ⅲ：自由意見、自由記述。Ⅳ：回答者自身のこと、である。

②支援プログラムをサポートする場作り：「ターミナルケア・グリーフケア研究会」として実施し、ターミナルケア体験の語り合いを促進する学習機会の共有を図った。平成 30 年度 7 月と 12 月の 2 回実施した。参加者は、看護師、がん看護 CNS、看護系大学教員、大学院生ほか。勤務地は病院、訪問看護ステーション等。内容は、事例検討、国内外のターミナルケア関連の研究成果の共有、社会情勢の動向や施策などの情報提供、実践活動報告、課題に対する情報交換と意見交換である。主な課題は、病院と地域をつなぐ場・機会のあり方、体験を学習へと転換する学習方法の共有方法であった。

(4) 支援プログラムの検証
調査期間：平成 31 年度。
①協力者の概要：2 名、女性。看護師経験年数は全員 5 年以上、専門看護師 1 名。支援プログラムを 1 月～2 月に 1 回実施した。
②支援プログラム評価：プログラムの満足度は「とても満足した」と「満足した」であった。良かったことには、体験語りや想起を促す問いかけにより体験の意味に気づくことができた、自分の体験を言葉に起こすことで新たな気づきを見つけることができたなどが上げられ、体験による学びを明確にできていた。
③今後さらに検証を重ねて看護師が自ら実施できる支援プログラムの実用を図っていく。

＜引用文献＞
1)Patricia Benner, et al: Educating nurses, A call for radical transformation, Jossey-Bass, 2010
2)山﨑智子、浅野美知恵：グリーフを生きる人々へのケアのありかた. グリーフケア第 2 号,2014.
3)佐藤禮子監修著、浅野美知恵編著：絵でみるターミナルケア改訂版、2015
4)ハロルド・ガーフィンケルら、山田富明ら訳：エスノメソドロジー、社会学的思考の解体、せりか書房、1987
5)梶田叡一：内面性の心理学、大日本図書、1997
6)藤井史朗：A. シュッツにおける個人の社会的存在様式把握の論、北海道大學教育學部紀要、183-195、1995
7)渡部光、那須壽、西原和久訳：アルフレッド・シュッツ著作集第 3 巻・社会理論の研究、マルジュ社、1991
8)古川久敬：組織と行動のダイナミックス、日本産業訓練協会、1984
9)中村陽吉：集団の心理、グループ・ダイナミックス入門、現代心理学ブックス、大日本図書、1981
10) 赤尾勝巳編：生涯学習論を学ぶ人のために、世界思想社、2004、141-169
11) 松尾睦:経験からの学習、プロフェッショナルへの成長プロセス、同文舘出版、2006
12) Makoto Matsuo: Framework for Facilitating Experiential Learning,Human Resource Development Review 14(4),443-453,2015
13) 松尾睦:5 分間リフレクション・エクササイズ、北海道大学 Discussion Paper Series B, 155: 1-8、2017

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 Michie Asano
２．発表標題 Nurses’ cognitive activities in the process of sharing terminal care experiences
３．学会等名 International Conference on Cancer Nursing (ICCN)（国際学会）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考